

錯誤捕獲された  
カモシカの  
放獣マニュアル



岐阜県カモシカ研究会  
株式会社ROOTS



錯誤捕獲されたカモシカ（写真提供：田中 忠氏）

# はじめに — 錯誤捕獲問題について —

ニホンジカやイノシシを対象とした捕獲で使用される「くくりわな」により、ニホンカモシカ（以降、カモシカとする）やツキノワグマ、中型哺乳類が誤って捕獲（錯誤捕獲）される事例が全国的に報告されています。近年、こうした錯誤捕獲が抱える様々なリスクが問題視され、各地の実情に則した対策が求められています。

錯誤捕獲された個体の生存に関するリスクとして、放獣後に衰弱している事例も報告されています。また、くくりわなにより足が損傷したと思われるカモシカも確認されています。こうして足が損傷したカモシカは、本来の行動圏を維持できず、衰弱し死亡する可能性が高くなります。また、錯誤捕獲発生時の捕獲従事者や住民にとっての安全上のリスクとして、カモシカを保定する際や、くくりわなから開放する際に角により負傷した事故例が報告されています。

こうした錯誤捕獲による様々なリスクを減らすため、錯誤捕獲が生じた際には、アニマルウェルフェア\*に配慮し、捕獲個体や捕獲従事者及び住民の安全を確保したうえで速やかに放獣しなければなりません。

そのため、本マニュアルでは全国で実施されているカモシカの放獣方法を収集し、安全に最も配慮した放獣方法のみを紹介することで、個体と捕獲従事者にとってのリスクを軽減することを目的とします。



錯誤捕獲されたカモシカ  
(写真提供：田中 忠氏)

本マニュアルの放獣方法は有効な手法として既に用いられておりますが、実際の作業現場においては臨機応変な状況判断が求められます。ご利用者様自身の責任と裁量をもって本マニュアルをご活用ください。

\***アニマルウェルフェア**：動物の生活とその死に関わる環境と関連する動物の身体的・心的状態（国際獣疫事務局(OIE)の勧告による）

## 参考文献

山崎晃司, 小坂井千夏, 釣賀一二三, 中川恒祐, 近藤麻実, “錯誤捕獲問題から目をそらし続けることはできない,” 哺乳類科学, vol. 60, no. 2, pp. 321–326, 2020.  
竹下毅, “長野県小諸市における足くくりわなによるカモシカ錯誤捕獲の現状と課題” 哺乳類科学, vol. 60, no. 2, pp. 351–358, 2020.

# 目次

1	錯誤捕獲に関連する許可	3
2	体制整備	4
3	放獣方法選択	5
4	スネアを用いた放獣	9
5	麻酔薬を用いた放獣	14
	5-A スネアとジャブスティックによる放獣方法	20
	5-B 麻酔銃による放獣方法	22
6	錯誤捕獲の回避	24



カモシカの角擦り跡がみられる林内

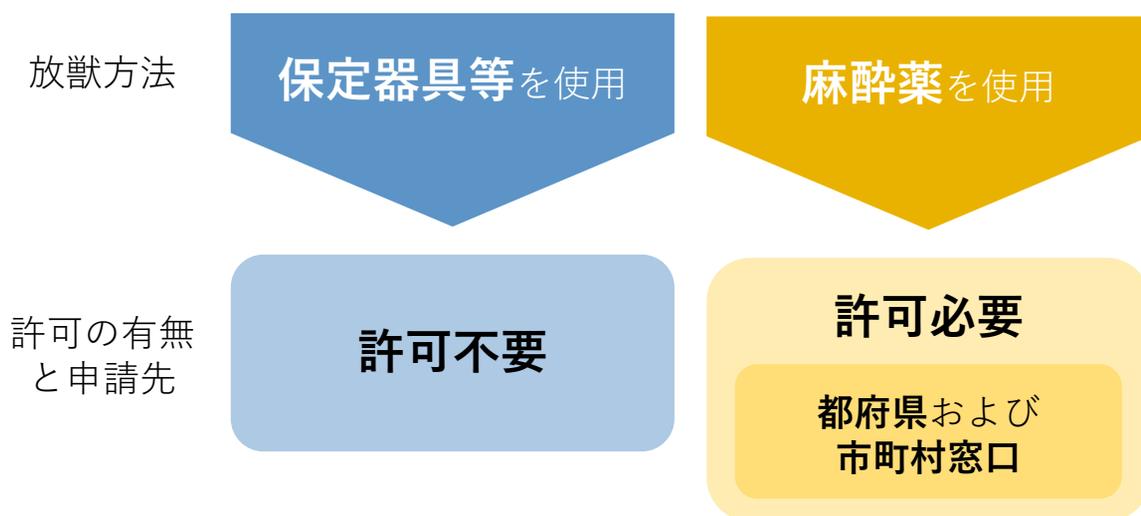
# 1

# 錯誤捕獲に関連する許可

鳥獣の捕獲等に関しては、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）」により定めており、鳥獣を捕獲等するには、「鳥獣の捕獲等の許可」が必要となります。ただし、錯誤捕獲されたカモシカを**保定用補助具等を用いて放獣**する行為は、**許可を要するものではない**ので、安全な放獣に努めてください。なお、**麻酔薬を用いてカモシカを不動化**し、事実上の支配力を獲得する行為は捕獲行為に該当することから、**必要な許可を得た上で実施**する必要があるので留意することとされています。

また、カモシカは野生鳥獣であると共に国の特別天然記念物に指定されていることから、個体数調整等でカモシカを捕獲対象とする際には、鳥獣保護管理法により定められた「鳥獣の捕獲等の許可」のほかに、文化財保護法により定められた「現状変更許可」が必要となります。しかし、ニホンジカ、イノシシといった他の鳥獣を捕獲する目的で設置したわなに、目的外のカモシカが誤ってかかってしまった場合（カモシカが錯誤捕獲された場合）、カモシカを直ちにその場で放獣する行為は、保存に支障をきたす状態におかれた特別天然記念物を元の状態に復するものであり、安全かつ迅速に放獣するためやむを得ず一時的に人の管理下におく行為（保定用補助具による保定や麻酔薬の使用による不動化等）も含め、文化財保護法第125条第1項ただし書き（維持の措置）に該当し、**現状変更許可を必要としません**。ただし、放獣作業を実施した際は、市区町村の文化財担当部局へのすみやかな情報提供に努めてください。

## 「鳥獣の捕獲等の許可」の必要の有無



1 錯誤捕獲に関連する許可

2 体制整備

3 放獣方法選択

4 スネアを用いた放獣

5 麻酔薬を用いた放獣

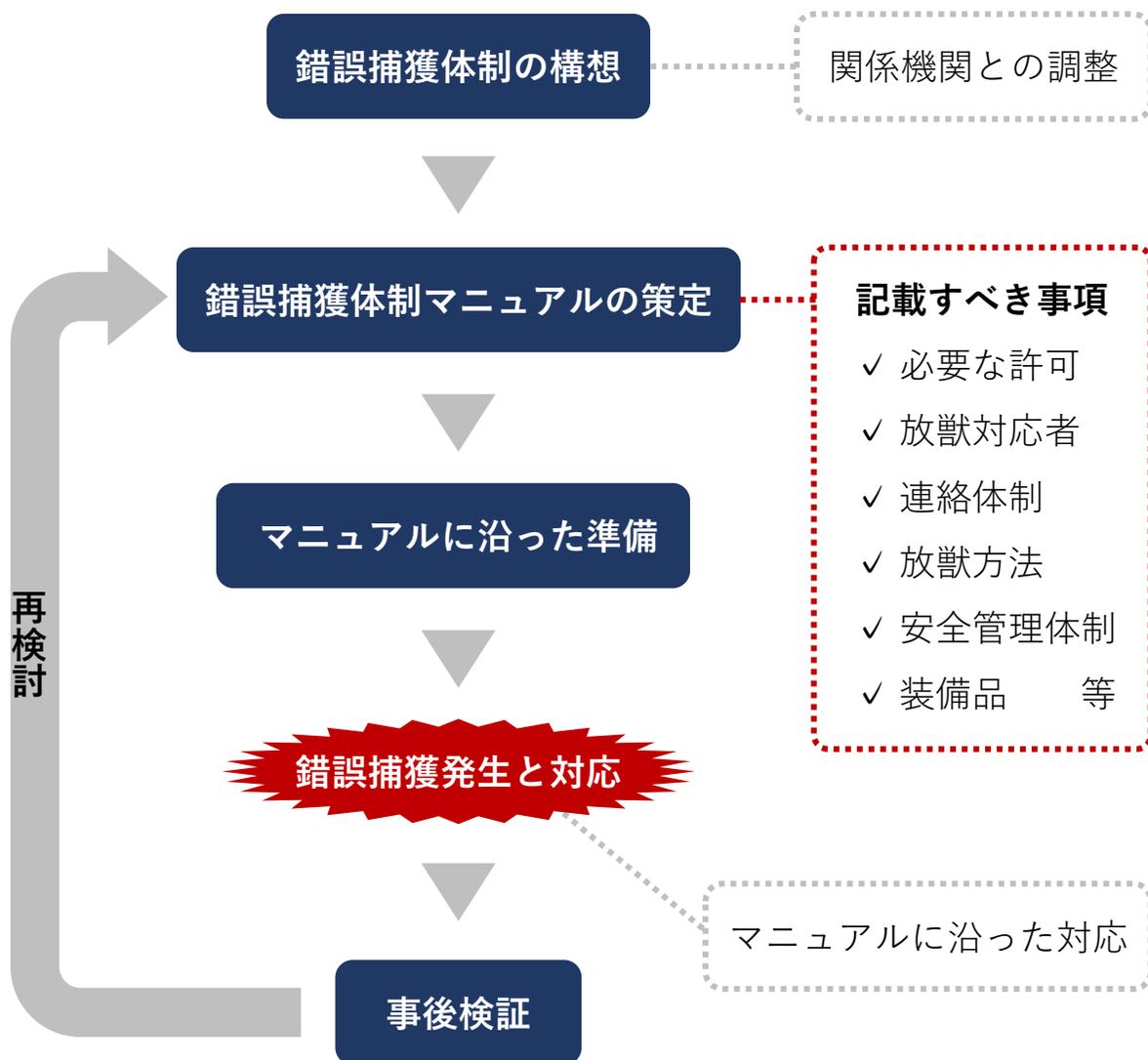
6 錯誤捕獲の回避

# 2

## 体制整備

錯誤捕獲は**事前の許可**から**適正な放獣方法の選択**（7ページ）、**放獣資材の準備**、**安全管理**や**連絡体制**等、事前に決めておかなければならない項目が多数あります。そのため、錯誤捕獲が発生する前に、錯誤捕獲対応の体制整備をしておくようにしましょう。こうした錯誤捕獲対応のための体制は、地域のカモシカの生息状況や捕獲の種類に左右されるため、**大まかなところは県や市町村で作成するか一定の指針を示すことが望ましい**と考えます。

自治体独自の放獣作業が難しい場合は、獣医師や麻醉銃の実績がある機関・団体に委託・依頼するのも一つの手段として検討してください。



# 3

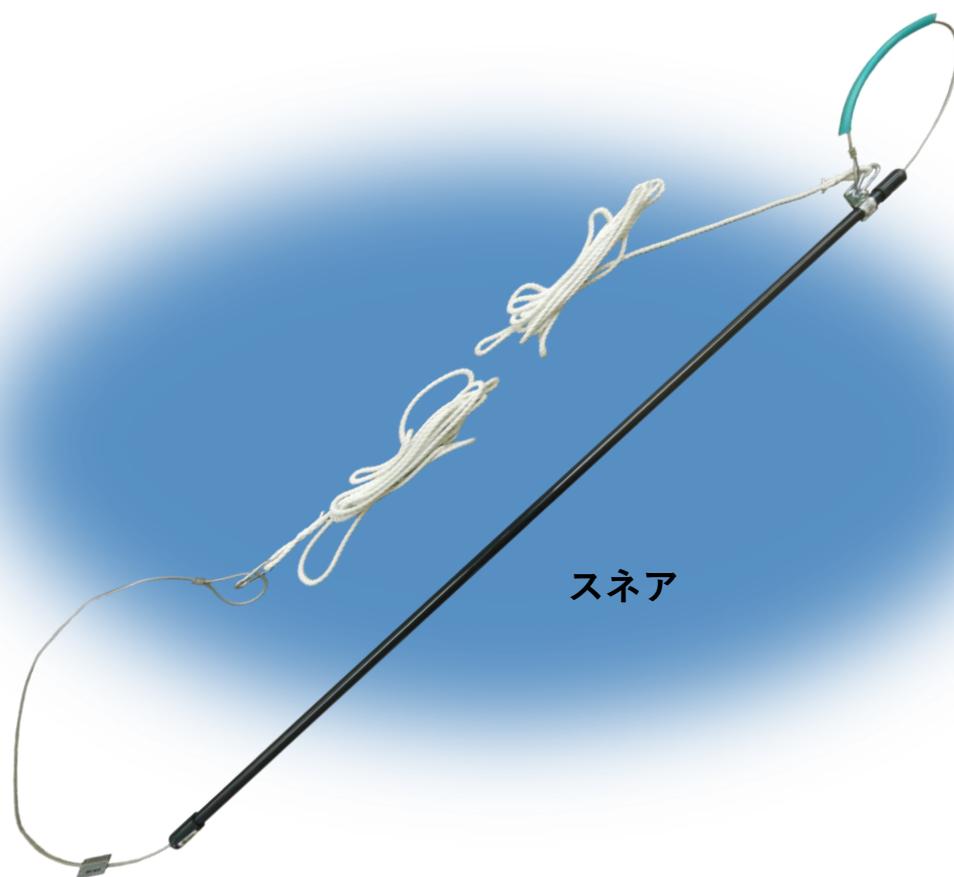
## 放獣方法の選択

放獣作業では**作業者とカモシカ、双方の安全を確保しながら進めなければなりません**。そのためにも、どの放獣方法を選択するかを事前に決定し、準備しておくことが重要です。後に紹介するフローチャートでそれぞれ合った手法を選択してください。

まず、放獣作業では個体を最初に**保定**（動かないようにおさえておく）することで、放獣作業を安全に進めることができます。保定の方法には**スネアを使用した方法**と、**麻酔薬を使用した方法**、或いは**両方を使用する方法**があります。

### ① スネアによる放獣方法

物理的に動物を保定する「**スネア**」は、許可が不要のため導入しやすく各地で使用実績があります。スネアについては様々なタイプがありますので、本マニュアルでは安全性が高いスネアの自作方法と使用方法を紹介します。注意点は保定までにカモシカと**1.5mの距離まで接近する必要がある**ことから、作業者はくくりわなや捕獲個体の取り扱いに慣れている方を選定して安全確保に努めることが重要です。



1

錯誤捕獲に  
関連する許可

2

体制整備

3

放獣方法  
選択

4

スネアを  
用いた放獣

5

麻酔薬を  
用いた放獣

6

錯誤捕獲  
の回避

## ② 麻酔薬を使用した放獣方法

麻酔薬による方法では、**麻酔銃**や**ジャブスティック**を用いて投薬する必要があります。いずれも麻酔薬を使用するための許可や届け出が必要になるため、実施できる体制整備が必要です。**麻酔銃**を使用することで個体と十分な距離を保ったまま不動化することができるので、**作業者にとっては安全性の高い手法**です。一方、**ジャブスティック**は1.5 m程度の棒の先に投薬用の注射器を装着して使用する製品ですので、最初にスネアを使って頭部を保定しておく事でより安全に作業を進めることができます。



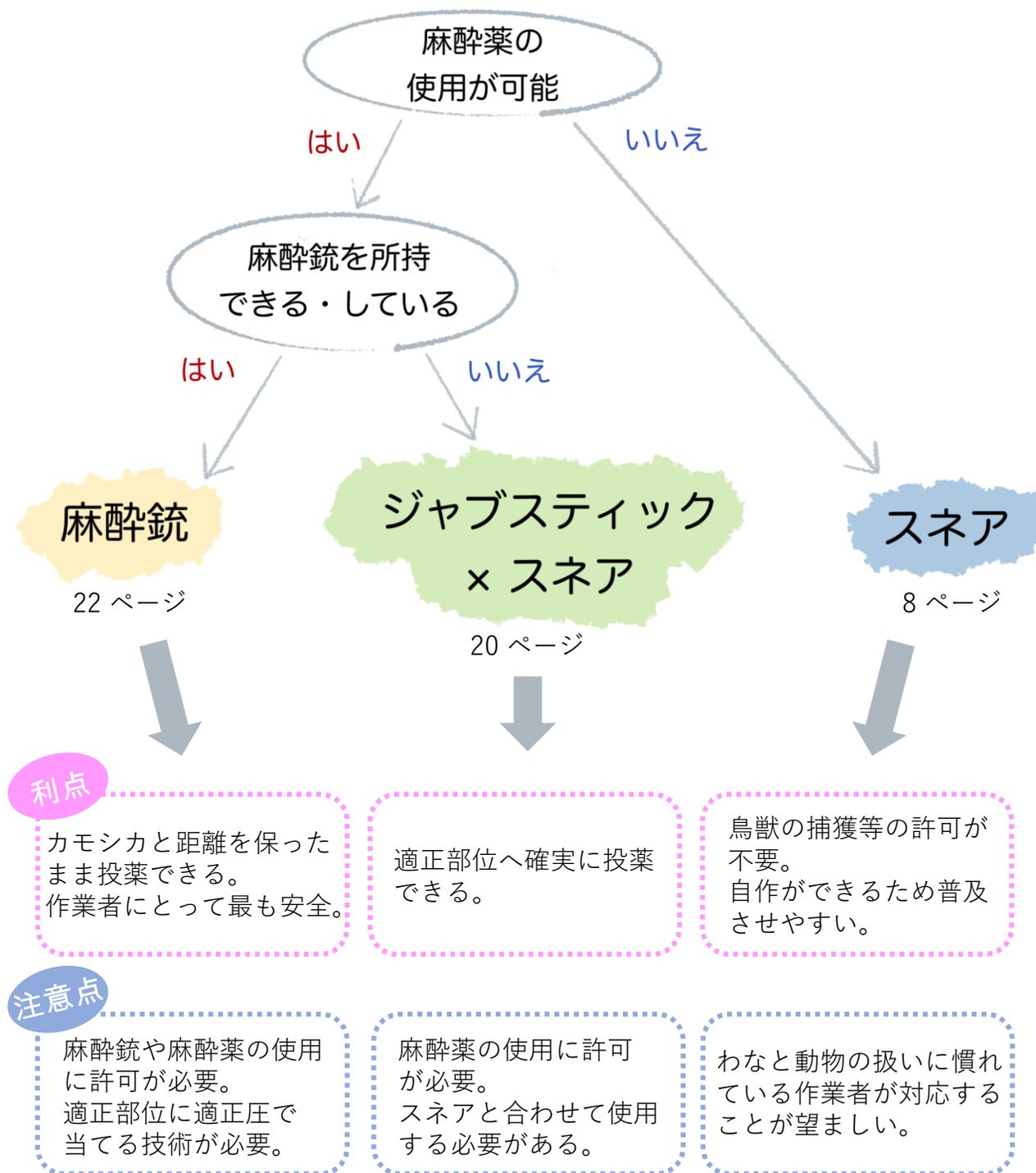
麻酔銃



ジャブスティック

スネア

# 放獣方法の選択と利点・注意点



## 十分に安全を確保するためのポイント

- ・放獣作業は必ず**2名以上**で対応してください。
- ・カモシカと接近する場合は、できるだけ**斜面の上部から接近**してください。
- ・放獣は適正且つ迅速に行い、**わなに長時間拘束された状態にしない**てください。錯誤捕獲された動物の損傷（骨折や脱臼など）の原因になります。

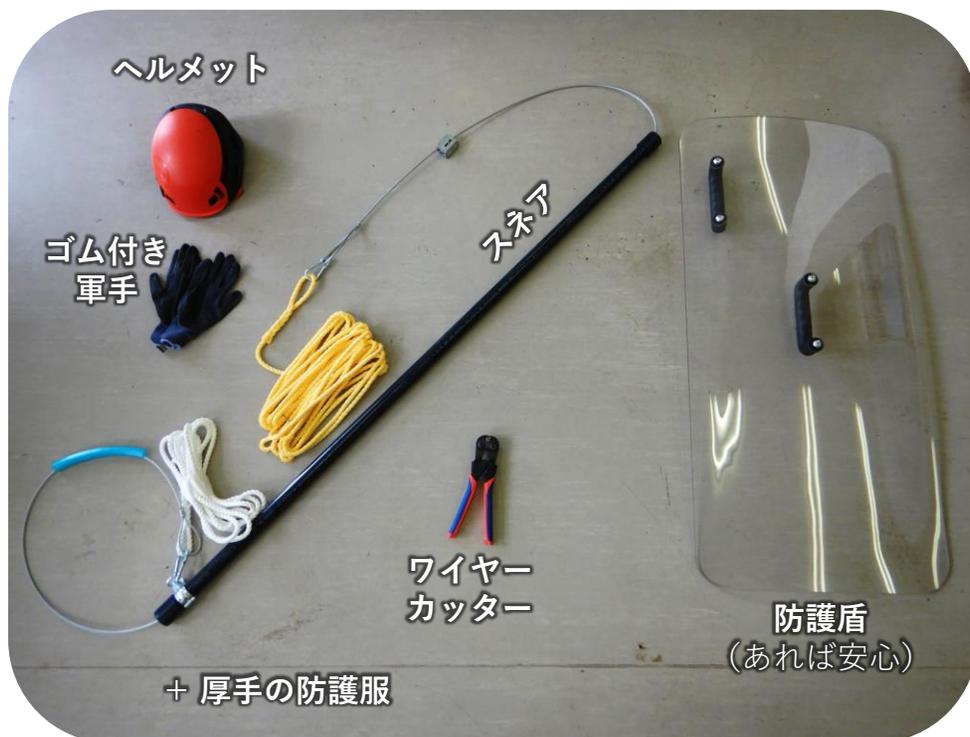
# 4

# スネアを用いた放獣

## スネアによる放獣方法の特徴

動物を**物理的に拘束するための道具を活用した方法**です。スネアは安価な資材で自作もでき、市販品（アニマルコントロールポール）も活用できます。そのため、麻酔に関する専門的な資格がなくとも使用可能で、普及しやすい点が最大のメリットです。作業者とカモシカの怪我を防ぐため、くくりわなやスネア、錯誤捕獲個体の取り扱いに習熟している作業者が対応することが望ましい手法です。

### 必要な装備の一例



### 使用の注意点

1. 一通りの流れ（ロープを縛る木や作業担当の明確化）を決めてから保定を開始する。
2. 保定後の作業時間はできるだけ短くする（5分以内が望ましい）。
3. 首の絞めすぎに注意する。
  - ・角があるため簡単には抜けない。若干ゆとりがあるくらいが望ましい。
  - ・カモシカが呼吸できるくらいはゆとりを持たせる。
4. 常に個体と一定の距離を保つことを心がける。
  - ・作業中は角に最も気を付ける。
5. 万が一の備えは十分にする。
  - ・ヘルメットや厚手の防護服、盾等を準備する。
6. 作業中は常にカモシカの状態に気を配る。



## スネアの構造

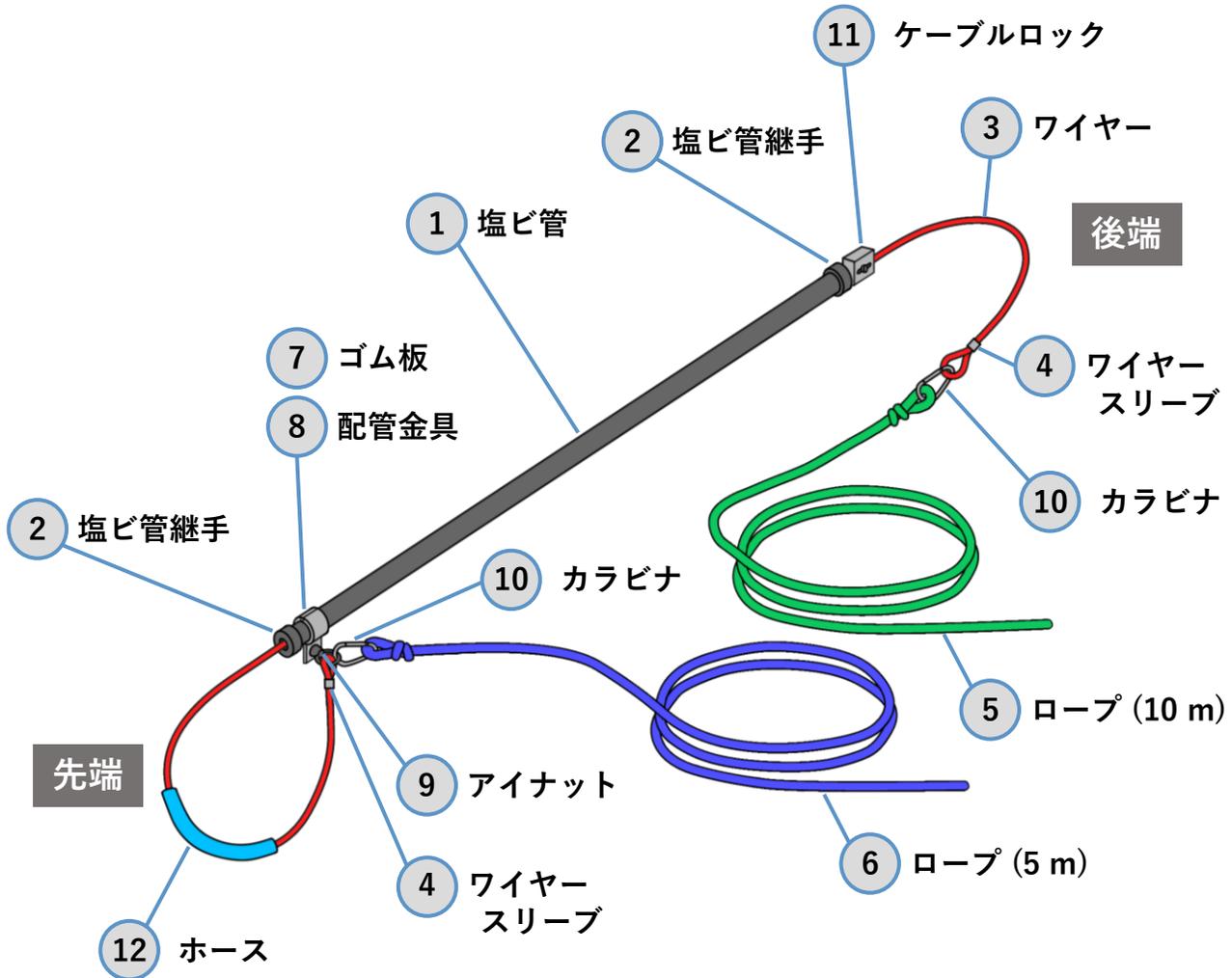


図4-1 スネアの構造図

### 使用方法

カモシカの頭部を先端の輪に入れた後に後端の③ワイヤーを引っ張ると、先端の輪が小さくなり、カモシカの頭部を拘束することができる。引っ張ったワイヤーは⑪ケーブルロックで固定しておくこと緩むことがない。詳しい放獣手順は12ページ参照

## スネアの作成に必要な道具と材料

### 道具

- ① かしめ機 (アルミスリーブに輪を作る)
- ② ワイヤーカッター (ワイヤーを切断する)
- ③ ドリル (継ぎ手に穴を開ける)

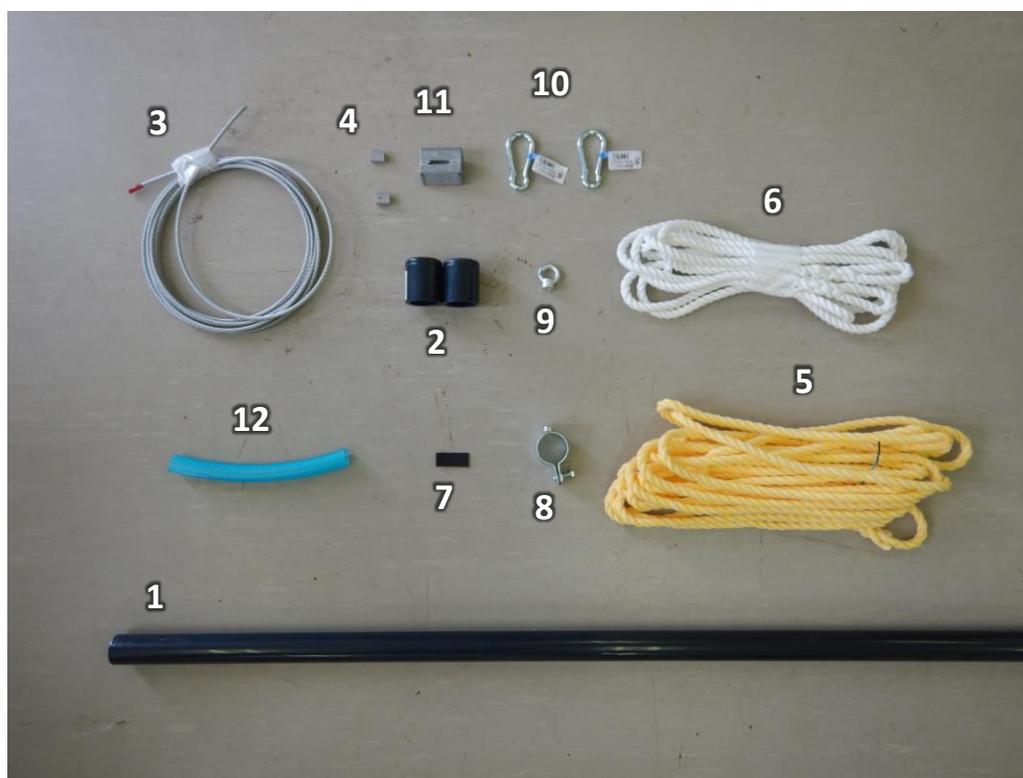
- 1 錯誤捕獲に  
関連する許可
- 2 体制整備
- 3 放獣方法  
選択
- 4 スネアを  
用いた放獣
- 5 麻酔薬を  
用いた放獣
- 6 錯誤捕獲  
の回避

## 材料と価格

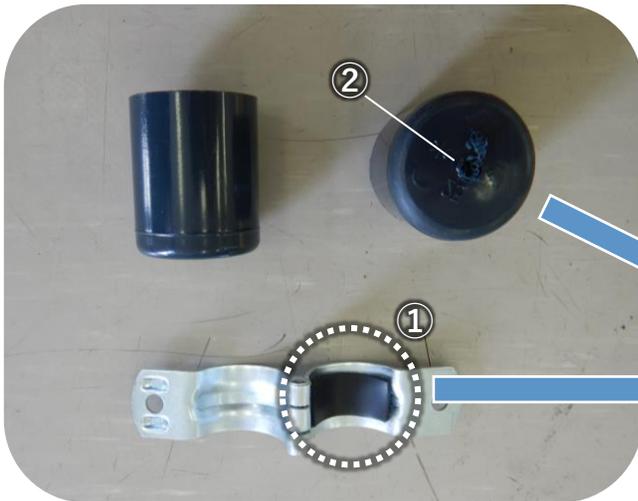
1セットおよそ5,500円で作成できます。複数個作成しておきましょう。

表 必要な資材と参考価格

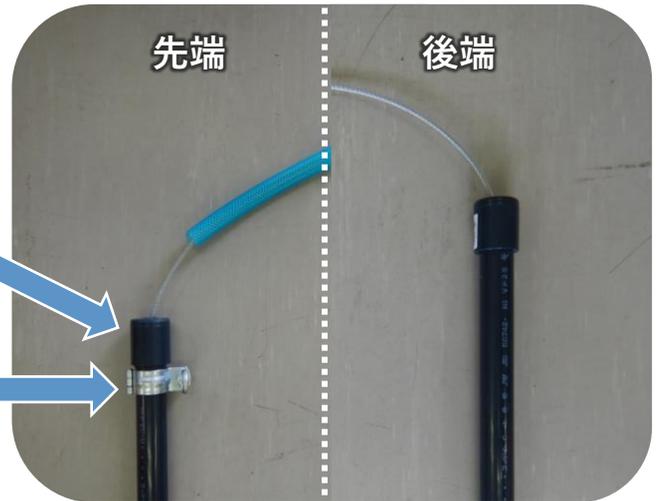
資材 No.	資材名	1基当たり		合計	備考
		単価	数量・距離		
1	塩ビ管 (25mm)	¥880	1.5m	¥880	太さ25mm
2	塩ビ管継手	¥138	2個	¥276	
3	ワイヤー	¥490	5m	¥490	太さ4mm
4	ワイヤースリーブ	¥99	2個	¥198	
5	ロープ (10m)	¥1,327	1巻	¥1,327	
6	ロープ (5m)	¥558	1巻	¥558	
7	ゴム板	¥119	15cm	¥119	使用するのは3cm程度
8	配管金具 (吊りバンド等)	¥98	1個	¥98	
9	アイナット	¥178	1個	¥178	
10	カラビナ	¥248	2個	¥496	耐荷重があるものを選ぶ
11	ケーブルロック	¥630	1個	¥630	くくり罫用の蝶ねじでも可
12	ホース (20cm)	¥30	1個	¥30	
<b>合計金額</b>				<b>¥5,280</b>	



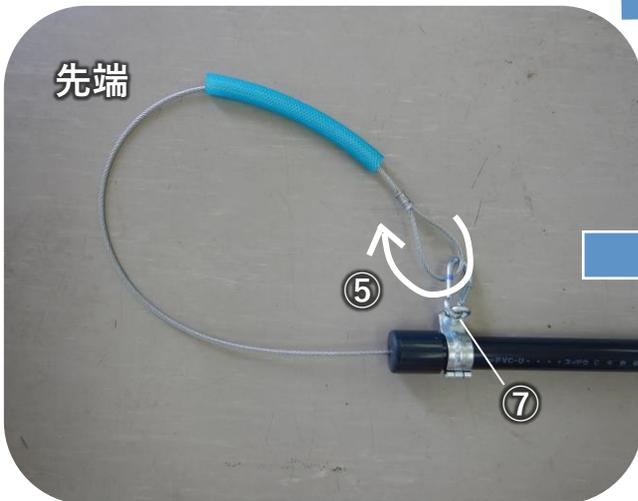
## スネアの作成手順



- ① 配管金具に滑り止めのゴムをつける
- ② 塩ビ管継手に穴をあける



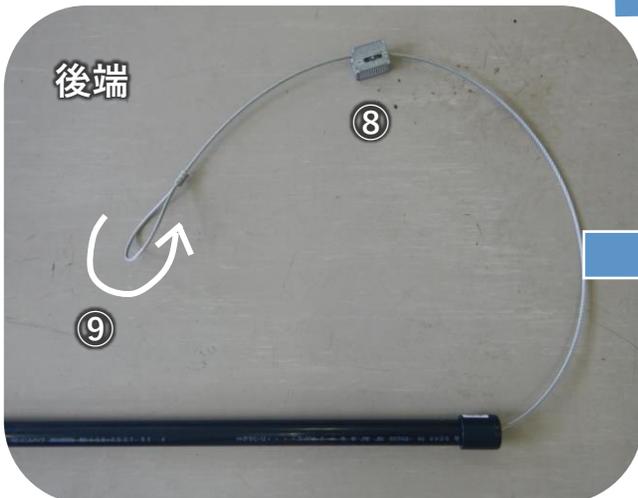
- ③ 配管金具をパイプの両端に固定する
- ④ 塩ビ管継手の穴と水道ホースにワイヤーを通す (先端のみ)



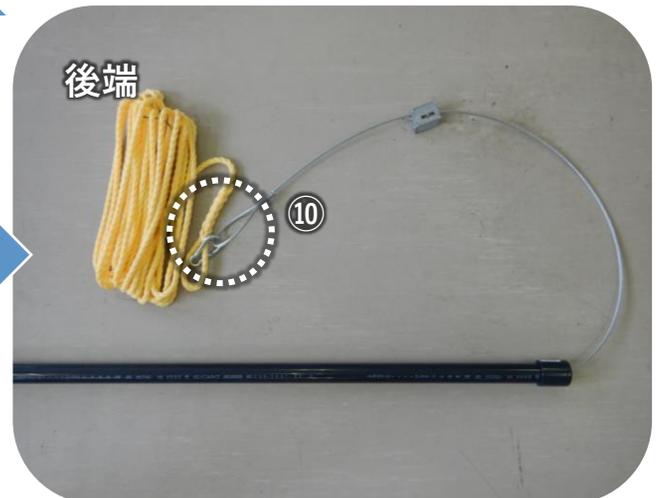
- ⑤ ワイヤー先端をかshめて輪を作る
- ⑥ アイナットにカラビナを付ける



- ⑦ ワイヤー先端の輪とロープをカラビナに通す

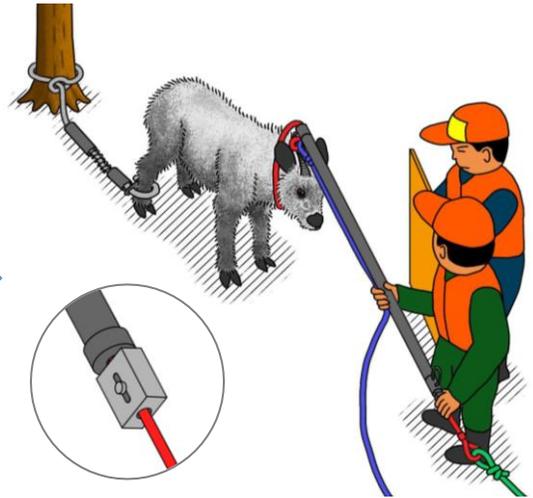
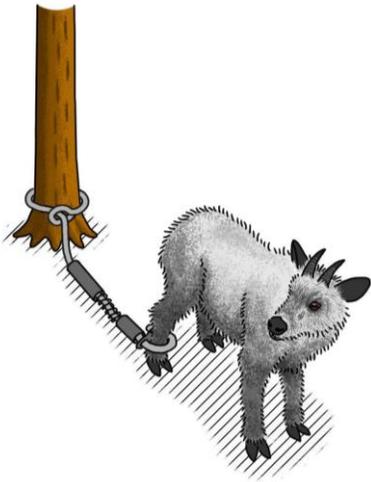


- ⑧ ワイヤーをリーズロックに通す
- ⑨ 輪を作ってかshめる



- ⑩ 輪とロープをカラビナで結んで完成

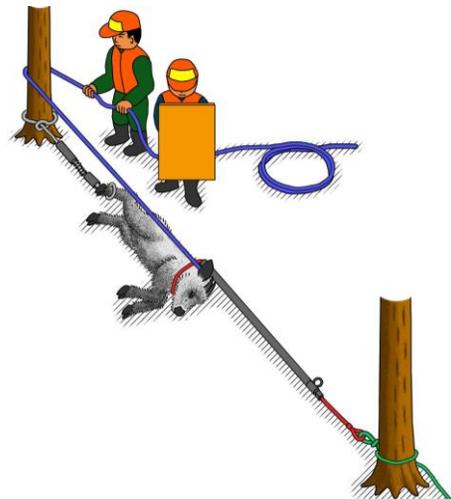
## スネアを用いた放獣手順



- ① 首にワイヤーをかけ
- ② ワイヤーストッパーで固定する



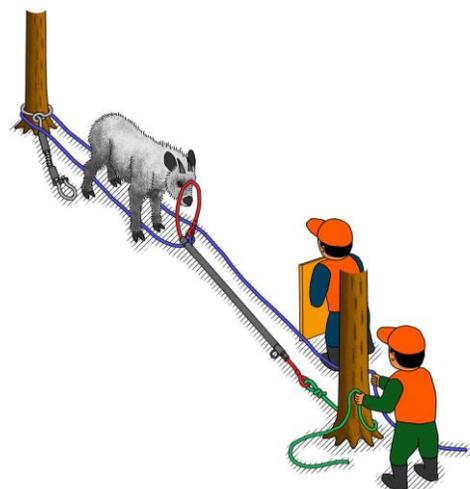
- ③ 手元のロープを立木等に固定する
- ④ ワイヤーストッパーを解除しておく



- ⑤ 首側のロープをくくりわなの根付等に回してカモシカの頭部を固定する



- ⑥ カモシカの怪我の有無を確認する
- ⑦ 首側ロープにテンションをかけた状態でくくりわなを外す



- ⑧ 手元のロープをほどく
- ⑨ 放獣完了



保定されたカモシカ（写真提供：竹下毅氏）



保定されたカモシカ（写真提供：竹下毅氏）

# 5

# 麻醉薬を用いた放獣

## 事前準備

麻醉薬や注射器などの医薬品・医療品は、現場で不足することがないように十分量を準備しておく必要があります。**必要量の3倍以上は用意しておくこと**を推奨します。また、現場でスムーズに作業をするため、医薬品・医療品や記録用紙などの必要物品はタックルボックスなどに整理して持参すると良いでしょう。**いつでも現場で使用できるように、日頃から医薬品・医療品の管理をしておくこと**が重要です。

## 必要な許可や資格

麻醉薬によって不動化（化学的不動化）する場合は、事前に「**鳥獣の捕獲等の許可**」が必要となります。麻醉銃によって錯誤捕獲されたカモシカに麻醉薬を投与する場合には、「**麻醉銃所持許可**」が必要になります（住居集合地域等において実施するときは、「**麻醉銃猟の許可**」も必要になります）。

錯誤捕獲された動物の放獣を目的として、**麻醉薬を投与する行為自体は、獣医師でなくても可能です**。しかし、麻醉薬の種類に応じて、使用のための資格、または資格を持つ者の指示の下で行うことが必要になります。カモシカの化学的不動化に使われる代表的な薬剤については後述します。また、麻醉薬や注射器などの医薬品・医療品の購入や管理の方法については、動物用医薬品販売業者や獣医師などに確認すると良いでしょう。化学的不動化のための準備や体制を整えるのは大変ですが、動物と離れた距離から不動化が可能なことから、**作業や動物にとっても安全で推奨できる方法です**。自前で行うことが難しい場合は、獣医師や麻醉銃の実績のある機関・団体へ委託・依頼するのも一つの手段として検討してください。





## 化学的不動化で使用する薬剤の種類について

錯誤捕獲されたカモシカの化学的不動化での使用が想定される代表的な薬剤について、以下に解説します。

### ① 塩酸キシラジンまたは塩酸メドトミジン

**鎮静・鎮痛作用のある催眠鎮静剤**で、劇薬・要指示医薬品に指定されています。獣医師でない場合には、購入・授受には獣医師の処方箋または指示が必要です。単独でも鎮静状態を得られる場合もありますが、興奮しすぎている場合など、個体によっては単独の使用では十分な鎮静効果を得られないことや不動化までに長時間必要なことがあります。そのため、全身麻酔薬の**ケタミン**と混合・併用して使用することで、より安全かつ短時間でカモシカを不動化させることが期待できます。



塩酸キシラジンの薬品一例  
\*複数社で販売しています  
(写真提供：竹下 毅氏)



塩酸メドトミジンの薬品一例  
\*複数社で販売しています

### ② 塩酸ケタミン

**全身麻酔薬**のケタミンは、「麻薬」に指定されています。所持と使用には「**麻薬取扱者免許**」（**麻薬研究者免許**または**麻薬施用者免許**）が必要で、厳重な管理が求められる麻酔薬です。特異的な拮抗剤がなく、通常はカモシカでは塩酸キシラジンや塩酸メドトミジンと混合・併用して使用されます。



塩酸ケタミンの薬品一例  
\*複数社で販売しています

- 1 錯誤捕獲に  
関連する許可
- 2 体制整備
- 3 放獣方法  
選択
- 4 スネアを  
用いた放獣
- 5 麻酔薬を  
用いた放獣
- 6 錯誤捕獲  
の回避

### ③ 塩酸アチパメゾール

塩酸メドミジンの特異的な拮抗薬で、要指示医薬品に指定されています。獣医師でない場合には、購入・授受には獣医師の処方箋または指示が必要です。塩酸メドミジンを使って不動化されたカモシカの放獣作業が完了した後に投与することで、塩酸メドミジンによる鎮静作用からカモシカを速やかに（10分程度で）回復させることができます。塩酸アチパメゾールは、**塩酸キシラジンに対しても拮抗効果がある**ことが報告されています（大沼ほか2004；浅野ほか2004）。

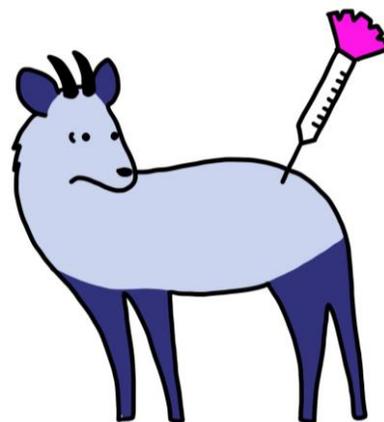


塩酸アチパメゾールの薬品一例  
(複数社で販売しています)

## 麻酔薬投与量の決定

麻酔薬の投与量は、動物の体重や状態に応じた調整が必要です。野外では、投与前にカモシカの体重を測定することはできないため、一般的なカモシカの体重（**成獣で30 kg ～ 40 kg**）を基準に、錯誤捕獲されたカモシカの体重を目測で推定して投与量を決定します。錯誤捕獲された個体の興奮が激しい場合は推奨量の範囲で多めに、逆に、おとなしい場合には推奨量の範囲で少なめに投与するなど、調整を行います。また、衰弱している個体では、麻酔薬を使わない方法で放獣を行うことを推奨します。

麻酔薬は十分かつ安全な量を確実に投与することが重要です。そのためにも、可能な場合には、不動化した後にカモシカの体重を実測し、目測による体重推定の精度を高める訓練を行うと良いでしょう。



## 麻酔薬の推奨投与量

麻酔薬の組み合わせはさまざまです。使用可能な薬剤の種類や放獣までに必要な作業時間に応じて、安全で確実な麻酔薬と投与量の選択を確立していきましょう。ここでは、実例のある薬剤の組み合わせと拮抗薬の推奨投与量（体重kg当たりの投与量）の例を紹介します。いずれの薬剤の組み合わせでも、**通常は30～60分の鎮静・麻酔効果が期待できません**。もし、一度に全量を投与できない場合には、**塩酸メドトミジン**または**塩酸キシラジン**を先に投与し、その後に**塩酸ケタミン**を投与すると良いでしょう。塩酸メドトミジンまたは塩酸キシラジンだけで十分な鎮静効果が得られた場合には、塩酸ケタミンは投与しなくても構いません。しかし一般的に、塩酸メドトミジンまたは塩酸キシラジンだけでは十分な鎮静効果が得られないことが多いです。

1) **塩酸メドトミジン (0.06～0.1 mg/kg) + 塩酸ケタミン (1.0～3.0 mg/kg)**

放獣作業完了後、拮抗薬として**塩酸メドトミジン投与量の5倍量の塩酸アチパメゾール**を投与することを強く推奨します。

2) **塩酸キシラジン (0.5～2.0 mg/kg) + 塩酸ケタミン (1.0～3.0 mg/kg)**

放獣作業完了後、拮抗薬として**塩酸キシラジン投与量の1/10量の塩酸アチパメゾール**を投与することを強く推奨します。

3) **塩酸キシラジン (1.5mg/kg)**

放獣作業完了後、拮抗薬として**塩酸キシラジン投与量の1/10量の塩酸アチパメゾール**を投与することを強く推奨します。



麻酔銃により麻酔薬を投与されたカモシカ

## 麻酔薬の投与方法

麻酔薬の投薬は、**麻酔銃**もしくは**ジャブスティック**の使用により、個体と一定の距離を取りながら、確実に筋肉内に投薬します。

麻酔銃では、個体から10～20 m程度離れても投与できます。ガス圧は、動物との距離に合わせて調整して下さい。一方、ジャブスティックは1.5 m程度と個体との距離が近く、角でけがをする危険性があるため、「4. スネアによる放獣方法」(8ページ)と合わせて使用するのが望ましいでしょう。

推奨される投与部位を、19ページ図5-1に示しました。麻酔銃では臀部・股(もも)の筋肉内に、ジャブスティックでは臀部・股または肩・上腕の筋肉内に投与します。いずれの場合でも、動物に対して真横から針が刺さり、針の先端が確実に筋肉内にとどまって麻酔薬が体内に入るようにします。特に、麻酔銃では、麻酔薬が体内に入ったことを双眼鏡などを使って確認しておきます。

麻酔薬を投与して効果が出てくるまでは、カモシカから姿が見えにくい場所まで離れ、動物の様子を静かに観察して下さい。人が側にいると、カモシカが興奮して麻酔効果が出にくく、余計に麻酔が必要になってしまいます。適切な量の麻酔薬が投与されれば、通常は10分ほどで鎮静・麻酔効果が現れます。

カモシカが座ったり横になったら、そっと近づいて、麻酔効果と個体の状況を確認します。麻酔薬を投与してから15分以上たっても効果が発現しない場合には、麻酔薬の投与ミスまたは不足が想定されます。状況に合わせて、投与のやり直しまたは追加投与を検討します。**麻酔薬を追加投与する場合には、直前に投与した量の最大でも1/2量の投与にする**と良いでしょう。



麻酔銃

ジャブスティック

## 不動化後の作業と拮抗薬の投与

カモシカが不動化され、足くくりわなを安全に外すことができることを確認したら、カモシカに手ぬぐいや幅のあるヘアバンド等で目隠しをします。可能であれば、**口にやや太めの枝などをくわえさせておき、舌をひっぱり出しておきます**。また、**呼吸がしやすいように、首を伸ばしておきます**。カモシカの呼吸の様子や体温の変化（夏は高体温症、冬は低体温症に留意）、外傷の有無をチェックして記録します。とくに、わなが掛かっていた足のけが（骨折・脱臼など）の有無、投薬器が当たった部位のけがの有無を確認しましょう。麻酔銃の投薬器の回収も確実にを行います。

**塩酸メドミジンあるいは塩酸キシラジンを用いた場合は、放獣作業が完了して撤収準備が整ってから、拮抗薬（塩酸アチパメゾール）を筋肉内に投与して覚醒を促すことを強く推奨します**。麻酔薬で不動化されたまま動物を放置すると、体調の急変によって死亡したり、他の動物に捕食されたり、母親の場合には子が死亡するリスクがあります。拮抗薬を投与すると、早い場合には10分ほどで起き上がったり歩き始めますが、まだ麻酔・鎮静作用から完全には回復していないので、よろけて転んでけがをしてしまう場合があります。崖の近くや傾斜がきつく危険な場所の場合は、安全な場所まで少しでも移動させてから拮抗薬を投与すると良いでしょう。拮抗薬を投与したら、少し離れた場所で動物を観察し、覚醒を確認してからその場を離れます。

化学的不動化では、麻酔薬の投与量、効果発現までの時間とその程度、作業完了までの時間、拮抗薬の効果などを記録しておくとい良いでしょう。これらの知見を積み重ねることで、より安全で確実な化学的不動化が可能になるでしょう。

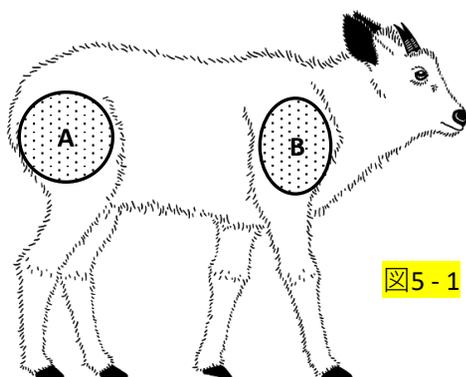


図5-1 麻酔銃(A)またはジャブスティック(AまたはB)での奨される麻酔投与部位  
A：臀部・股 B：肩・上腕

### 参考文献

浅野 玄, 大沼 学, 高橋 裕史, 服部 薫, 上野 真由美, 島 絵里子, 梶 光一. エゾシカにおけるキシラジン-ケタミン混合薬に対するアチパメゾールの拮抗効果. 日本野生動物医学会誌9:131-134, 2004.  
大沼 学, 高橋 裕史, 中村 友香, 田中 純平, 浅野 玄, 松井 基純, 釣賀 一二三, 鈴木 正嗣, 梶 光一, 大泰司 紀之. 凍結乾燥塩酸メドミジンを利用したエゾシカ(*Cervus nippon yesoensis*)の化学的不動化. 日本野生動物医学会誌9:125-129, 2004.

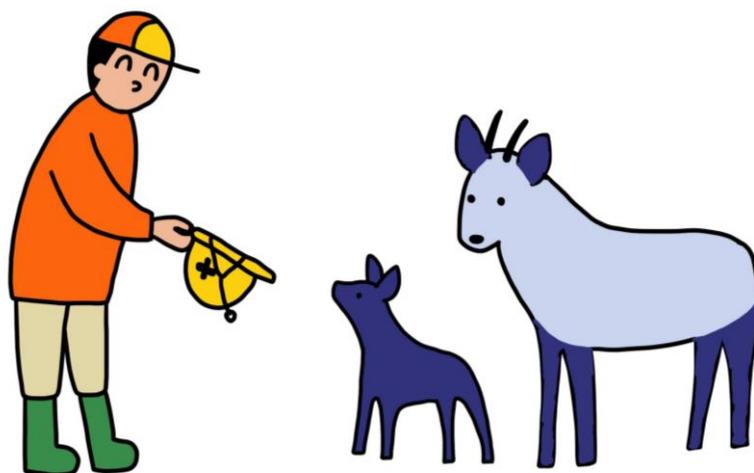
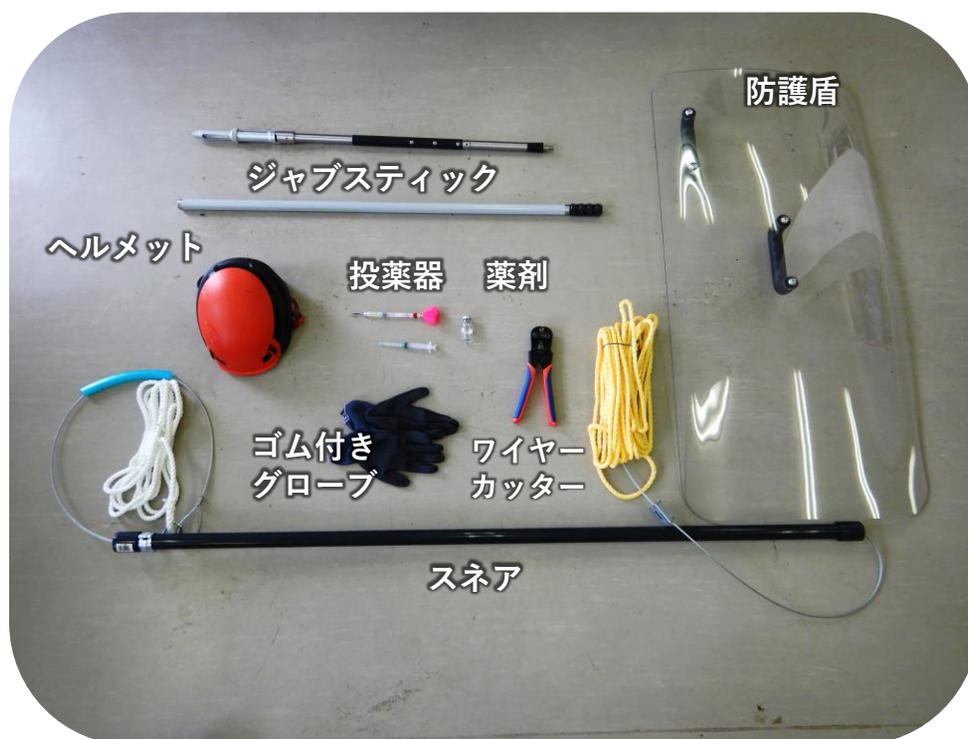
# 5 - A

## スネアとジャブスティックによる放獣方法

### 特徴

頭部をスネアにより保定し、ジャブスティックによる麻酔薬を投与する方法です。くくりわなを外す際にはカモシカに麻酔薬が投与されているため、作業者の安全性を高めることができます。一方で、麻酔薬を使用するための許可が必要となる点には注意が必要です。

### 必要な装備の一例



# スネアとジャブスティックを用いた放獣手順



- ① 首にワイヤーをかけ
- ② ワイヤーストッパーで固定する



- ③ 手元のロープを立木等に固定する
- ④ ワイヤーストッパーを解除しておく



- ⑤ ジャブスティックで麻酔薬を投与する



- ⑥ 首側ロープにテンションをかけた状態でくくりわなを外す



- ⑦ スネアを取り外す
- ⑧ 拮抗薬を打ち、麻酔から覚めて安全に歩き出すのを確認したら放獣完了

1 錯誤捕獲に  
関連する許可

2 体制整備

3 放獣方法  
選択

4 スネアを  
用いた放獣

5 麻酔薬を  
用いた放獣

6 錯誤捕獲  
の回避

## 5 - B

# 麻醉銃による放獣方法

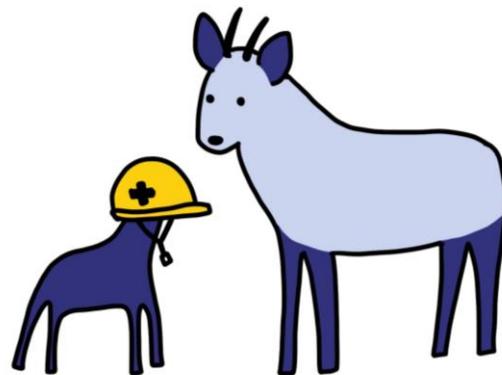
### 特徴

麻醉銃を使用することで、捕獲個体と一定の距離を取りながら不動化することが可能です。

### 必要な装備の一例



\* 投薬器や麻醉銃の取り扱いについては環境省発行の「住居集合地域等における麻醉銃の取扱いについて」を参照してください

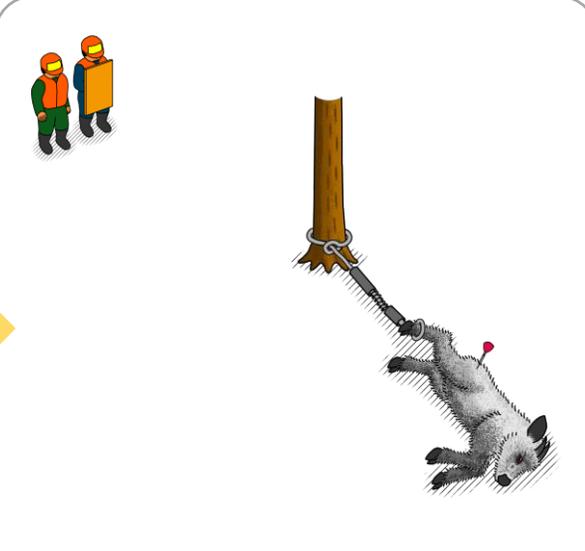




## 麻醉銃を用いた放獣手順



①カモシカの大腿部を狙撃するため1名がカモシカの気を引き、1名が狙撃



② 麻醉が効いて倒れるまでは触れずに距離をとって観察する



③ 麻醉の効きを確かめて  
④ くくりわなを外す



⑤ 拮抗薬を打ち、麻醉から覚めて安全に歩き出すのを確認したら放獣完了

- 1 錯誤捕獲に  
関連する許可
- 2 体制整備
- 3 放獣方法  
選択
- 4 スネアを  
用いた放獣
- 5 麻醉薬を  
用いた放獣
- 6 錯誤捕獲  
の回避

# 6

## 錯誤捕獲の回避

カモシカやシカ、イノシシ、クマは同じ獣道を利用することがあるため、カモシカの生息地でくくりわなにより錯誤捕獲の発生を完全に回避することは困難です。ただし、錯誤捕獲の発生確率を避けることや、錯誤捕獲個体に負わせる怪我を抑えられる可能性はあります。そうした手法の有効性については試行的に実施されている段階ですが、有効性が高いと考えられる手法を紹介します。

### 1. カモシカの痕跡が多い地点を避ける

カモシカの糞や角擦り跡、目撃等が多数ある場所では、可能な限りわなの設置を避けてください。また、錯誤捕獲が発生した地域に「カモシカ生息地」等の看板を設置する等といった情報共有が効果的です。



カモシカの糞（1回分）



カモシカの糞（複数回分）



カモシカの角擦り跡

### 2. 獣道を外した誘引捕獲

同じ獣道上をカモシカ、シカ、イノシシ、クマ等の複数の種が利用するため、獣道上に設置したくくりわなでは錯誤捕獲の可能性があります。この錯誤捕獲を防ぐため、獣道を外して誘引餌を利用した誘引による捕獲が施行されています。その一例ではシカへの誘引餌としてハイキューブ、配合飼料、草食獣用動物園飼料、鉍塩等を使用しており、特に鉍塩を効果的に活用した誘引では、誘引せず獣道にくくりわなを設置して捕獲する方法の捕獲率と比較して高い捕獲効率が得られたという報告があります。ただし、**誘引餌には対象動物の地域や季節性の違い、種間の重複があるため誘引試験を実施**してから導入することをお勧めします。



誘引物の一例

#### 参考文献

坂庭 浩之.ニホンジカの効率的な捕獲に関する研究(2).群馬県林業試験場業務報告20:9-32, 2016.

1

錯誤捕獲に  
関連する許可

2

体制整備

3

放獣方法  
選択

4

スネアを  
用いた放獣

5

麻酔薬を  
用いた放獣

6

錯誤捕獲  
の回避



本活動は、公益財団法人自然保護助成基金第30期（2019年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けたものです。

本マニュアルの無断転用を禁ずる

2021年（令和3年）9月発行

岐阜県カモシカ研究会

編集：岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター  
株式会社ROOTS

協力：竹下毅（長野県小諸市役所）

安田雅俊（森林総合研究所）

岐阜森林管理署

熊本県高森町教育委員会

群馬県嬬恋村農林振興課

宮崎県高千穂町林務課

デザイン：田島美和

イラスト：安藤夏太郎（工房アンドウ）

写真提供：田中忠（熊本県高森町教育委員会）